

# 館報 はた



スージーちゃん スイカワくん

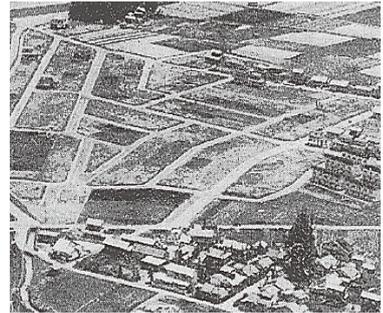
令和5年3月1日現在

世帯数 6,320戸  
人口 15,411人  
男 7,494人  
女 7,917人

## 北原団地 分譲の頃の思い出 余滴

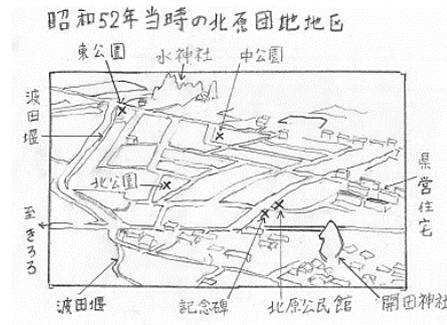


北原公民館の北側に、高さ2m程の碑がある。



昭和52年当時の北原団地

「北原住宅地記念」とあり、団地誕生の由来が書かれている。この地は元々桑畑やリンゴ畑などの農地だった。目立つものといえば、東南角にある水神社のこもりした木立と、その北側の大きな柿の樹、西に目を移すと遠く一本松が見えるといった景色だった。25区、26区を隔てる道路も団地誕生前は車がやつとすれ違える道幅しか無かったという。



昭和48年、そんな畑地を県が買上げ、県企業局が造成分譲し

た。40余名の地主に全区画の35%を還元する方式をとり、紆余曲折がいろいろあったがそれは省略、昭和51年3月に分譲申込みが始まった。

その広告が、地元「松筑新聞」にも載った。松本市のベッドタウンとして期待も大きかったのか、購入希望も多く抽選も行われた。「俺の区画は希望者が3

**(宅地)北原団地(分譲)**

環境良好 松本市街地へ車で約10分です

所在地	東筑摩郡波田町字北原地跡	分譲期	昭和51年3月19日(金)
今四分画	総数 75区画	申込受付	昭和51年3月19日から3月24日まで波田町役場
区画	1区画面積 253.31㎡～650.98㎡	抽せん会	昭和51年3月25日(水)
分譲価格	1区画価格 3,872千円～10,044千円 (平均価格1区当たり約15,430円)	申込	午後1時 波田町公民館 (波田町役場の隣)
利便等	松本電鉄上高地線波田駅へ8分・波田町役場前バス停留所へ10分・保育園、小・中学校へ10分・商店街へ5～10分・医療施設へ5分	抽せん会	午後1時 波田町公民館 (波田町役場の隣)

当時の松筑新聞に掲載された広告

人いて、役場の抽選所でガラガラをやって決めた。当たって良かったよ」と、当時を懐かしむ方もいた。

また、下見に来たとき、地元の人から「ここは気候もいいし、野菜なんか持ってきてくれたりして、住んでいる人もいい人たちだよ」と言われた。のんびり穏やかな気風で

実際、子どもが畑のリングゴをもいで食べたりしても咎める人はいなかったと、これは私もあちこちで耳にした。こうした土地柄は今も健在と思う。

高齢化が進む一方、新築も目立つ所いかもしれない。最後に、貴重な資料を提供いただいた百瀬光信氏、関義弘氏、両氏にお礼を申し上げます。

## 17区 町内公民館主催 赤松ウォーキング

17区町内公民館の行事を紹介します。

コロナ禍で外出機会が減り、住民同士が顔を合わせる機会が少なくなっているなか、参加者がそれぞれのペースで歩きながら交流の場にしようとウォーキングイベントを計画しました。昨年6月26日(日)に開催したイベントでは、老若男女合わせて20名の皆さんに参加いただきました。天候にも恵まれ、初夏の風の中でウォーキングが始まりました。

コースは、17区公民館裏手の梓川堤防道路です。しばらくは梓川を眺めながら下流方向へ歩を進めます。途中「梓川分水工」や「花見サイフォン」等を見ながら川原の林間を進みます。再び、堤防を上ると、今度は右手の風景が開けます。そこは、だいぶ成長した田んぼの苗が風に揺れており、小



さな実をつけたリングゴ畑も広がっています。

スタートから3kmほど進むと折り返し点の「川原マレットゴルフ場」入口に到着しました。参加された皆さん全員が無事に折り返して帰路へ向かいました。

約2時間弱のウォーキングを終え、公民館へ無事ゴール！皆さんそれぞれ会話も弾んでいました。各自のゴールを確認後、抽選会を開催し、記念品を受け取りながら、参加者それぞれ久々の交流にたくさん笑顔があふれていました。

秋は10月30日(日)に開催し、こちらも多くの皆さんにご参加いただき、紅葉を楽しみながらのウォーキングとなりました。

今後も地区の皆さんの健康づくりと交流を深める事業として、続けていきたいと計画しています。

満蒙開拓団体験を聞いて

2月21日に波田地区人権啓発推進協議会主催の人権講座に参加しました。内容は、波田21区在住の三村修一さんが満蒙開拓団として入植し、その際に体験された壮絶な史実を、地元梓川高校の生徒さんが画像で再現し発表いただいたものです。

わたしにとつての戦争は、中学・高校等の歴史の授業においての知識のみであり、戦争経験者の方の実体験を伺う機会は今回が初めてでした。そんな中、同じ波田に住む三村さんのお話は、とても衝撃的なものでした。食料不足病気の蔓延、戦争による死と隣り合わせの日常は、現在の私たちの生活においては想像しづらいものです。ただ現代社会においてもロシア、ウクライナ間の戦争、紛争はなくなりません。毎日のニュースで空爆等の映像を見てみると、仮に自身が当事者になったらと考えると恐怖が込み上げます。なぜ戦争はなくならないのか。利権、ビジネス等々の様々な面でその要



三村さん(右から三人目)と梓川高校生徒の皆さん

因はあるかと思えます。ですが、どの側面からしても、人々の命を奪う戦争を行う正当な理由にはなりません。むしろ現代社会では「SDGs」において、「平和と公正をすべての人に」と、あらゆる暴力と暴力による死をなくすことに力をいれており、戦争の根絶は世界的に取り組むべき課題でもあります。今後、戦争の悲惨さを実体験として語れる方が少なくなりそうです。辛い過去だからこそ、戦争を知らない我々世代の人たちが深く知る機会が必要であり、今回の講座は過去を知り、将来を考える良い機会となりました。そして梓川高校の生徒さんの学習、発表も素晴らしかったです。

でも印象的でした。三村さんのような方々の経験、歴史を経て、大きく成長をとげた現在の日本の姿があるのだと思います。平和な日々が続くように、自身の家族にも今回の話を伝えていきたいと思えます。貴重なお話をしてくださった三村さん、そして梓川高校の生徒さんありがとうございました。

10区 今年度唯一の行事

今年度も新型コロナウイルス感染症の波が何度かありました。計画した行事がほとんど中止になるなか、昨年12月に婦人部の企画で、正月飾りになる「ちりめん細工教室」が唯一開催されました。

参加人数も限られたなかでの開催となりましたが、松飾り、羽子板のどちらかのコースの中から希望する作品を選び、講師から教わりながら作られていました。事前に用意された素材を切ったり、ボンドで



「合掌坂」 皆さんは「合掌坂」をご存じですか。あわじ通りから13区の集落センターの道沿いにあります。瀬東と上波田との間にあります。

この道を少し下がった場所に道標があります。その道標には、右方向に行くと「船場」を至って梓川村に至る、左方向に行くと「赤松に至る」と記してあります。実際歩いてみると、右に向かう道は幅が狭く、道が崩れている箇所がいくつもありません。左に向かう道は幅も広く、波田堰へ続いていました。この道を馬車が通っていたようです。瀬東から梓川村まで渡し舟が運航されており、生活の一部として利用されていました。上波田には上海渡と寺山の間に「長坂」、上海渡と赤松との間には「おさつ坂」があります。皆さんも一度は歩いて、歴史を感じてみてはいかがでしょうか！



「合掌坂」の名前の由来を伝える看板